

### 嵯峨天皇さまと最澄

当宮御本社のお祭神であられる嵯峨天皇さまは平安時代初期の天皇であられ、真言宗の弘法大師 空海との逸話が多い事で知られていますが、実は天台宗の伝教大師 最澄とも関わりが深い方としても知られています。

最澄は遣唐使として渡唐し、天台教学や禪密教の伝法を受けた後、多くの経典等を携えて、延暦廿四年(八〇五)、日本に帰国。法華經に基づいた天台の教えを広め、嵯峨天皇さまの父、桓武天皇さまの病氣平癒の祈願を行った事から存在が知られるようになり、日本天台宗として公認されるようになりました。

『日吉社神道秘密記』によれば、日本に帰国した最澄はお茶の種を故郷の滋賀県坂本に植え、それから十年後の弘仁六年(八一五)、滋賀県唐崎を幸になられた嵯峨天皇さまに、大僧都の永忠 最澄と共に唐に渡り共に帰国した僧がお茶を奉り、これが日本における日本茶の記録上の初見で、この故事は最澄との関係も深かった事が伺われます。

さらに弘仁九年(八一八)に天台宗の教育方針を記した「一隅を照らす。此れ則ち国宝なり」の一節で有名な『天台法華宗年分学生式』を嵯峨天皇さまに献上。弘仁十年(八一九)には、比叡山に大乘戒壇(大乘仏教の菩薩が受けて保つべき戒律を授ける場所)の設立を具申するも、奈良の僧らが猛反発。しかし粘り強い交渉の末、三年後の弘仁十三年(八二二)六月三日に、嵯峨天皇さまは大乘戒壇設立を勅許。しかしその間に、最澄の体は病魔に蝕まれており、勅許翌日の六月四日、最澄は遷化(逝去)しました。

この最澄の逝去を悼み、嵯峨天皇さまはその年の十月十七日、(最澄上人を哭すと題した、「哭澄上人詩」を下賜されました。五言排律の詩で、草書体で大師風の名筆と呼ばれています(青蓮院に現存)。今月はその詩を下賜されてからちょうど一千二百年になります。

奈良時代から脱却し、平安時代という新時代を築くべく奔走された嵯峨天皇さまと最澄いま令和という新時代を歩む我々をどのようにご覧になられているのでしょうか。

### コロナ禍 御旅社の社務について

新型コロナウイルスの疫病も終わりが見えて参りましたが、これまで何度も感染者数の増加があった事からまだ暫くは用心が必要です。

しかしながら今号執筆時点では規制も殆ど無い事から、茶屋町の御旅社の社務につきましては従来通り土日午後一時〜五時で授与所のお受付、それ以外の日はその時々とさせて頂き、御朱印も御朱印帳への直書きの方、大丈夫でございます。

もし今後の状況により、対応変更の場合は、当宮のツイッターにてご案内させて頂きます。

### 御本社東面 玉垣追加募集について

神山町に鎮座します当宮御本社東面に、昨年、嵯峨天皇行幸一千二百年、今上陛下御即位記念として、玉垣を建立しましたが、残柱分につきましてご奉納の追加募集を致しております。ご希望の方は、御本社の本殿前か、東門(裏門)掲示板横にあります申込書にてお申し込み頂くか、もしくは茶屋町の御旅社までお問い合わせ下さいませ。 御旅社 〇六―六三七一―一五八六

### 今月の暦

【御旅社授与所(茶屋町) 御朱印平日受付日】  
十月二十五日(火) 十三時〜十七時の予定

【祭礼】 秋祭(十五日)：梅田の秋祭り。菊花祭とも。神事のみ

【節気】 寒露(八日)：露が冷気によって凍りそうになる頃  
霜降(廿三日)：露が冷気によって霜となって降りる頃

【雑節】 十三夜(八日)：旧暦九月十三日のお月見。豆名月  
秋の土用(十月廿日〜十一月六日) 土掘りは遠慮  
初亥(廿五日)：旧暦十月初亥の日。亥の子餅。兎我野ゆかり。

【大安】 十月四日、十日、十六日、廿二日、廿六日

【祝日】 スポーツの日(十日)

【朔望】 上弦(三日)、満月(十日)、下弦(十八日)、朔月(二十五日)

【旬】 【野(菜)】 大豆、カブ、南瓜(日本種)、生姜、芋全般

【果(物)】 柿、梨、栗、ザクロ、りんご(早生)

【魚介類】 秋刀魚、イワシ、太刀魚、鮭、コウイカ、

【その他】 きのこと類、菊、秋バラ、金木犀、コスモス

### 網敷天神社 SNS、地図サイト



筆者 網敷天神社 禰宜(御旅社 神主)

白江 秀知